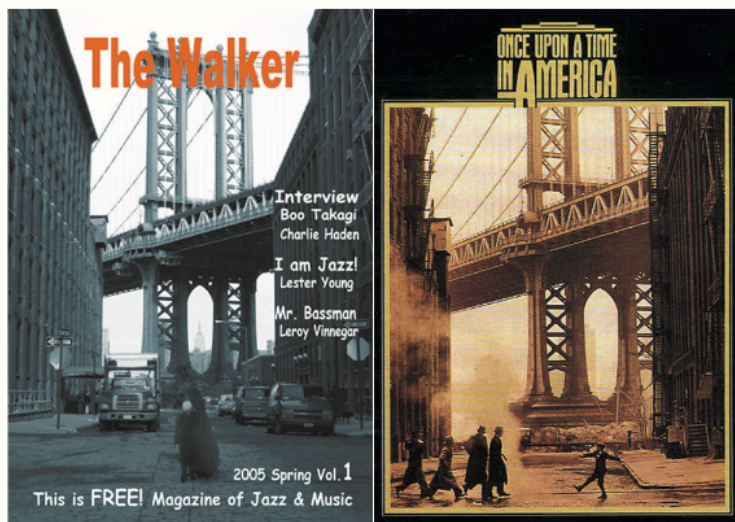


Japanese man In NY (ニューヨーク生活)



『The Walker's Vol.1』 & 『Once Upon A Time in America』

《マンハッタン・ブリッジ》

今回はニューヨーク・マンハッタンの橋の話。

ニューヨークで橋といえば、ブルックリン・ブリッジが有名だが、この橋はマンハッタン島南端付近とブルックリンを結ぶ橋として1883年に完成。上下2層に分かれており、下層は片側3車線の車道、上層は自転車や人が歩いて渡ることができ、休日には橋の上をランニングする人々の姿も目立つなど、ニューヨークの観光名所のひとつになっている。

そして、ジャズの世界でも有名な橋がある。マンハッタン東部とブルックリンを結ぶ橋として、1903年に完成したウィリアムズバーグ・ブリッジだ。今も現役で活躍するジャズ・サクスの巨人＝ソニー・ロリンズが嘗て活動停止中にこの橋で練習を続けていたことは今や伝説となっている。

他にも、1909年に完成したマンハッタンとクイーンズを結ぶ橋で、サイモン&ガーファンクルの名曲「五九番街橋の歌」のテーマにもなったクイーンズボロ・ブリッジ。1931年に完成したマンハッタンとニュージャージーを結ぶ橋ジョージ・ワシントン・ブリッジなどがあるが、マンハッタンの橋の中で一番思い出深い橋はマンハッタン・ブリッジだ。

この橋はマンハッタン島南部とブルックリンを結ぶ橋として、1909年の大晦日に開通した鋼製の吊り橋で、上層に4車線の自動車通路、下層に3車線の自動車通路と4本の鉄道線路、歩行者通路、自転車通路がある。ブルックリン側の通称ダンボ（DUMBO : Down Under the Manhattan Bridge Overpass の略）と呼ばれる地区の真上にかかっている、橋の真下にはトンネル状のパブリック・スペースがあり、昼間は地元ブルックリンのダンサー達がレッスンをしていたり、近年は夜間になると様々なアート・イベントも開催されているようだ。

また、マンハッタン・ブリッジといえば、映画『ワンス・アポン・ア・タイム・イン・アメリカ』を忘れることはできない。1984年製作のアメリカ・イタリア合作のギャング映画で、監督・脚本はセルジオ・レオーネ。禁酒法時代にニューヨークのユダヤ人ゲットーで育ったギャングの生涯を描いた名作で、ヌードルス役のロバート・デ・ニーロやマックス役のジェームズ・ウッズ等の名演に加えて、イタリアの巨匠エンニオ・モリコーネの音楽も最高の映画。この映画のジャケットやポスターに使用されているのがマンハッタン・ブリッジを背景にした風景で、幼少期のストーリーが展開される前編でこの辺りの風景が登場する。

そして、何を隠そう、本誌『The Walker's』の創刊号の表紙は、この『ワンス・アポン・ア・タイム・イン・アメリカ』のジャケット写真をイメージして…オマージュして…と言いたところだが、正直に言うとパクらせてもらったといっても過言ではない。勿論、背景の写真は創刊時2005年のもので、ニューヨークのウェイター時代に大変お世話になったHideさんに、わざわざ橋のたもとまで足を運んでもらって撮影して来てもらい、それを加工&編集したものだ。我ながら、なかなかのインパクトは出せたと思っているが、Hideさんには本当に感謝です。

最後に、これだけ思い出深く、憧れていたマンハッタン・ブリッジながら、4年間のニューヨーク生活の間、何度か鉄道に乗って通り過ぎたのみで、橋のたもとに行ったこともなければ、橋の周りにさえ近づいたこともなかった…。こんな感じで、日々の生活に追われながら、他に楽しいこともあったりしてうつつを抜かしていたこともあり、「いつでも行けるからまあいいか…」と思っで見過ごしていた風景や景色が他にも多々ありますが、今になって後悔しています…。